

# 住まいづくりニュース④

第4号 平成25年3月26日発行

平成24年度に西宮市で行われた住まいや住環境に関する取り組みの一部をご報告します。

1

第18回



を開催しました。

11月25日(日)、甲南大学西宮キャンパス「甲南CUBE」で第18回「西宮まちづくり塾」を開催しました。122名の方に参加して頂きました。今回は、コーディネーターとして日常編集家そして「住み開き」提唱者のアサダワタル氏をお招きし、カルチャースタディーズ研究所主宰の三浦展氏、つどい場さくらちゃん代表の丸尾多重子氏、ゴジカラ村役場の田中美貴氏とともに、『ご近所の「新しいつながり」を考える』というテーマでご講演を頂きました。

## 第一部

### 「ご近所の『新しいつながり』を考える」

三浦 展

#### ゴールドタウンに変えていく



まちづくりには時間がかかります。早くて10年、だいたい20年、もしかすると30年かかるので、今からやっていると日本中ゴ

ースタウンだらけになり、空き家や空き地はどんどん増えていきます。そこで、住むのではなく、別の使い方をすればいいじゃないかということで、例えば、空き地は公園や市民農園にしよう。あるいは、公園に面した空き家はcafeで使おう。こんな風に、住宅地を住むだけではない場所にしていこう。田園もあれば都市的なものもある住宅地＝ゴールドタウンに変えていく必要があると思っています。

#### シェアしあうという生き方

2055年に日本で一番人口が多いのは81歳です。そうなる



(左から、アサダさん、丸尾さん、田中さん、三浦さん)

と、身も心も健全でお金もあるという人はほとんどいなくなります。頭はすっきりしているけど足は動かないとか、お金はあるけど体が病気とか、体は丈夫だがお金がないとか。必ず1拍子は欠ける人ばかりになります。そうすると欠けている人は欠けてない人から補ってもらおう。その人も別の部分が欠けている。それをまた別の人が補うという形で輪になって補い合う、シェアしあうという生き方に変えていく必要があると思うわけです。

#### 高齢者3人が若者を1人支える社会へ

「高齢者が増えるばかりで若い人は大変だ。1人の若者が3人の高齢者を支える社会になるぞ」といわれているわけですが、発想の逆転が必要です。3人の高齢者が1人の若者を支える。こういう発想に変えるといいのではないのでしょうか。

アサダ 空き家を使ってほしい高齢者と、空き家を使いたいという若い人をつないで、空間を共有しながら世代が「まじくる」ということができやすい環境があればいいなと考えていますが、何かいい事例はありますか。

三浦 世田谷に家の中の一部屋だけを読書空間として貸し出している事例もあります。ここは、家主さんが財団や

区と連携して、建築やまちづくりの専門家のバックアップを受けながら取り組んでいます。こんな風に基本的には市民が主体であるべきです。その場合に空き家における住む側、借りる側のニーズのすり合わせをどうやっていくかが問題になると思いますが、一律な基準ではなく、それぞれのニーズのマッチングを丁寧にやっていく必要があると思います。

## 第二部第 座談会

「ご近所でいろんな人たちがまじくるためには？」

三浦 展×アサダ ワタル×丸尾 多重子 ×田中 美貴

つどい場「さくらちゃん」の紹介

丸尾 つどい場「さくらちゃん」を西宮で始めてもうすぐ10年になります。何がつどい場かという「まじくる」、つまり、一人で生きていけない人たち、いろんな世代・環境の人、それから仕事でも行政、社会福祉協議会、地域の人たちいろんな人がまじくる場のことだと思っています。

「ぼちぼち長屋」の紹介

田中 私どもゴジカラ村は、もともとは幼稚園の経営から始まり、今は社会福祉法人やNPO法人、専門学校などを運営しています。今日は、たくさんある法人のうちの



ひとつ「ぼちぼち長屋」という1階に介護が必要な高齢者、2階に一般の方が一緒に住んでいるところを紹介します。ぼちぼち長屋というのは、寝たきりのお年寄りにも子供にも役割と居場所がある、それぞれ暮らしの役にはたたないかもしれないけれども、存在するだけで価値があるという考え方を軸にして、交ざってくらしましょうということを目指したコミュニティです。特徴としては、一緒にいれば自然に会話がができる。互いに見守りにもなる。困ったら助け合える。ただ居るだけで和む。笑える。そして怒る。もめる。騒ぐ。泣ける。高齢者が集まる暮らしの場所です。これが堂々とできるっていうのはなかなかすごいところじゃないかと思っています。今年で10年目になりますが、始めた当初は今というサービス付高齢者向け住宅という制度もなく、民間がこのような施設を簡単につくれなかった時代で、手探りでやってきました。

アサダ 三浦さん。お二人のお話をお聞きしてどうですか？

三浦 家族とは何かという問題とも絡むんだけれども、例えば、一人暮らしはワンルームマンション、結婚したらマンション、子どもができたならニュータウンの一戸建て、年をとってきたら施設というふうに家族の形態によって住む場所というのが決まっている。これは近代主義なんです。これに居心地が悪いという人が増えてきている。僕のいうゴールドタウンも居心地のよい場所づくりだと思うんです。いろんな世代が自分に適した居心地のいい住み方を選んでいけるようにならないといけないと思いました。お二人の事例はまさに居心地のいい場所づくりだなあと感じてお聞きしました。

## まとめ

アサダ 今回のテーマ『新しいつながり』という場づくりに興味がある方に一言ずつお願いします。

丸尾 あちこちにつどい場が生まれてきているのがとてもうれしいです。つどい場が増えていくには行政や社協の方とうまく連動することが大事やと思うんです。地域で活動すると反対が必ずと言って

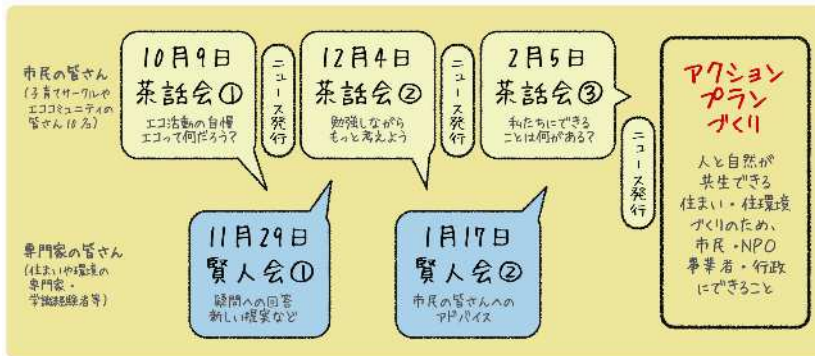


いいほど出てきますので是非行政の方にお力を借りたいと思います。よろしくお願いします。

田中 ゴジカラ村がほめられるようになったのはここ7、8年だと思います。最近は地域コミュニティやまちづくりの視察として、外国からも含めて年間1200人以上の方が訪れます。今日の私の話はほんの一端ですので、一度遊びにきていただけたら嬉しいかなと思います。

三浦 みんな自分の存在を認めてほしい、承認してほしいんですね。会社人間として認めてほしいとか、主婦として認めてほしいとかじゃなくて、トータルな存在として認めてほしいっていう。そうするためには自分の中の、普通知られてない別の面をどんどん開いていく場が必要だろうと思っています。

「人と自然が共生できる住まい・住環境づくり」を目指して、市民の皆さんとともに、環境に優しい「住まい」や「暮らし」について考える市民ワークショップを開催しました。



平成24年度「宮っ子エコいえワークショップ」開催の流れ

### ワークショップで話し合ったこと

「茶話会」「賢人会」計5回の会合を行う間に、西宮市で自然と共生する住まい・暮らしを実現するための様々なテーマを話し合いました。今後もこうした勉強会を通じて、環境に優しい住まい・暮らし方について市民が主体的に学んでいくことが重要であり、最終的には「自ら判断できる市民になる」ことが「環境学習都市 にしのみや」の市民として重要であることを確認しました。

### 今後の取り組み

ワークショップの話し合いを受け、市民が「自ら判断できる市民になる」ため、市はエコいえに関する学びの場の提供の検討、専門家の登録・派遣、を具体的に進めていくこととします。

### 今後、市が取り組む課題

#### 具体的に進める項目

##### 「エコいえ」に関する学びの場の提供

西宮市では、宮水学園をはじめとして「消費者出前講座」「まちづくり塾」「リフォームセミナー」「マンション管理セミナー」など様々な講座を用意しています。これらの講座に、できるだけ「エコいえ」に関する視点を組み入れ、より多くの市民が「自然と共生する住まいや暮らし方」について知るきっかけをつくります。まずは「マンション管理セミナー」で「環境」をテーマとした講座を組み入れます。

##### 「宮っ子のいえアドバイザー」の派遣

##### アドバイザーの登録

西宮市内外の建築家やコンサルタント等、環境共生型の住まい・住まい方や地域のコミュニティ形成に詳しい専門家を募り、「宮っ子のいえアドバイザー」として登録します。

##### 地域への派遣

地域からの派遣要請を受け、登録された「宮っ子のいえアドバイザー」を派遣し、人と自然が共生できる住まい・住まい方についてセミナーを行う、などの支援活動を行います。

#### 今後検討する項目

##### 「エコいえナビゲーター(仮)」の育成・派遣

**専門知識や技能を有する市民を「エコいえナビゲーター」として育成**  
建築関係の会社を退職したプロなど、地域内で「エコいえ」活動のできる市民を募り、専門の知識を地域で活用していただくために講座を開催する等の支援を行うとともに、受講者を「エコいえナビゲーター」として登録することを検討します。

##### 「エコいえナビゲーター」の派遣

地域や個人の要請により、住まいの悩みを抱えている人、自力でのリフォームで悩んでいる人などに登録された「エコいえナビゲーター」を派遣し、個別の住まい相談にのったり、エコリフォームの仕方を指導するなど、支援活動を行います。

##### 既存の助成制度の改善

「住宅用太陽光発電システム設置補助事業」や「生きものと共生した住まいの緑化助成制度」などの既存の助成制度に対し、必要に応じて改善を検討します。

##### 関係部局との連携強化

公園緑地部局や環境部局等、庁内関連部局との連携を強化し、人と自然が共生できる住まい・住まい方を推進する施策について横断的に検討します。

H23 年度に行った『住まいの空きスペース活用ワークショップ』の提案を受けて、「つどい場を開設したい」という市民の方のサポート体制を少しずつ構築中です。

つどい場が増えてきました。

つどい場が市内に少しずつ増え、市が把握しているもので現在 5 つ以上あります。今後も住まいの空きスペースを活用したつどい場づくりを応援していきます。

宮っ子のいえサポーター交流会を行いました。

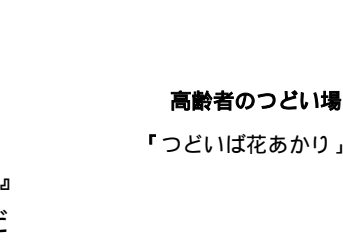
10月3日、『住まいの空きスペース活用ワークショップ』のメンバーや市内つどい場主宰者の方々にお集まりいただき、『宮っ子のいえサポーター交流会』を開催しました。つどい場主宰者の方から実際の取り組み状況の報告など、情報交換していただきました。

つどい場開設希望者へ宮っ子のいえアドバイザーを派遣します。

H25 年度より創設予定の宮っ子のいえアドバイザー派遣制度では、つどい場を開設したい市民の方に対してもアドバイザーを派遣する予定です。



多世代がまじくる  
「つどい場さくらちゃん」



高齢者のつどい場  
「つどいば花あかり」



高齢者のつどい場  
「いっぶく」



多世代のつどい場  
「ふかたに」



今年もワークショップを行います。

H25 年度のワークショップのテーマは「住宅セーフティネットとしての民間賃貸住宅の役割」です。市民の皆さんや民間事業者の方や関連団体の方々とともに提案していただく予定です。

マンション管理セミナーを開催します。

今年度も 7 月にマンション管理基礎セミナー、10 月～12 月にマンション管理実務セミナーを開催します。詳細が決まりましたら、随時市政ニュース、HP で掲載いたします。

~~~~ 今後も引き続き住宅政策業務へのご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます ~~~~

お問い合わせ先

西宮市役所 都市局 都市計画部 住宅政策課

TEL : 0798-35-3778

FAX : 0798-34-6638

E-mail : jyusei@nishi.or.jp